

いぐさ本田における冬期広葉雑草の防除法

農業研究センター い業研究所 栽培部

研究のねらい

いぐさ田では、数年来の暖冬傾向・植付の早進化や乾田化に伴い雑草発生の早期化や草種の変化が大きくなっている。特にタガラシ、タネツケバナ、ノミノフスマ、オオアブノメといった広葉雑草は近年発生の拡大した難防除雑草として問題となっている。

そこで広葉雑草に効果の高い除草剤の選定を目的とし、冬期広葉雑草に効果的であったロロックス粒剤の使用を検討する。

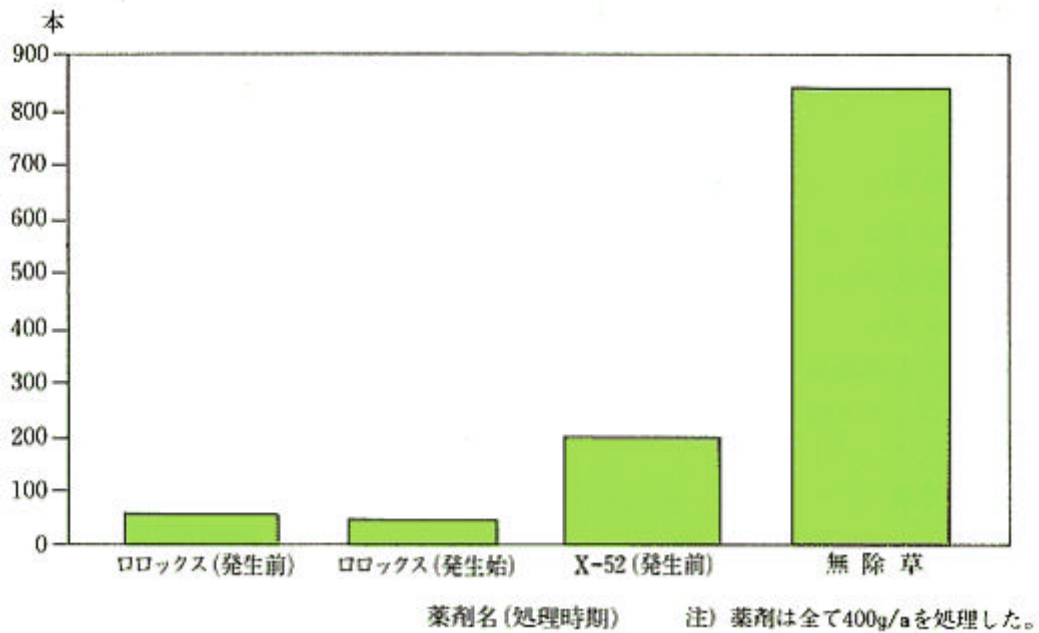
研究の成果

1. ロロックス粒剤の除草効果

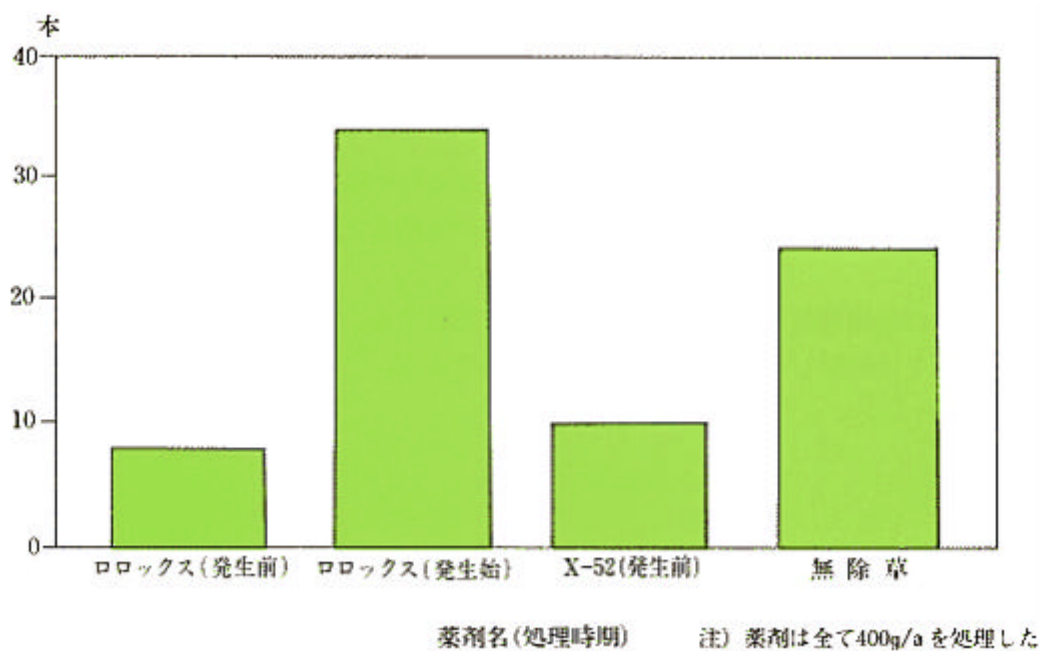
- (1) 植付後の雑草発生前から発生始期に処理した場合、広葉雑草、特にオオアブノメやノミノフスマ等に対し、顕著な除草効果を示すが、スズメノテッポウに対しては、処理が遅れると除草効果が低下する。
- (2) エックスゴーニと比較するとやや葉期の進んだ広葉雑草まで有効で残効期間も長い。安定した除草効果を得るには冬期雑草発生前処理が望ましい。
- (3) 実際の使用場面では、冬期広葉雑草対象剤としてのロロックスの特徴を生かすには、カソロン等との体系処理が必要である。

2. ロロックス粒剤の薬害

- (1) 適正な使用で薬害は認められないが、圃場条件や降雨等により水が縦浸透して、薬剤をいぐさが根部吸収すると、茎数抑制や先枯れといった生育抑制の可能性はある。
- (2) 実際の使用場面では、いぐさの活着後に処理する。また砂質田や縦浸透の大きな水田では使用しないといった制限が必要である。



第1図 オオアブノメの発生本数(平成3年産)



第2図 スズメノテッポウの発生本数(平成5年産)